第１回路網整備検討会

日時：令和７年６月 11 日（水）14 時 00 分〜16 時 00 分

【主な意見等】

＜総論＞

・育ってきた森林資源をどう扱っていくか、その中での林道の役割とは何か、作業システムと路網をどう構築するかというところを整理する必要があるのではないか。予算も技術者も限られる中で、林道整備の方針を検討すべき時期。

＜森林施業の多様化＞

・架線集材やホイール型林業機械など、森林施業の多様化に応じた路網整備については、施業の方針や時間スケールと合わせた議論をするべき。

・架線集材のためだけに幹線を新設するのは、想像しづらく、今ある林道でどこが適地なのかを考えることが重要。

・昔作った道は重要なところに入っており、セミトレーラに対応した道について、既存の林道を改良していくのではないか。

・改築や改良の手順や可能性のある路線はどこかということを提示できる方針のようなものを整理していくことが必要。

＜災害＞

・ＩＣＴで出来形を管理するようにすれば、コストダウンだけではなく、災害査定にも活用できる。今までのやり方を見直す必要があるのでは。

・新規の開設よりも既存の路網の予防保全が一番の課題。地方公共団体の立場としては、林道・森林作業道のことを考える際に、その有効利用のためには、国県市道の強靭化を同時に考える必要がある。

・代替路について、改良に当たっては、１０トン車が通れるならそのようにするなど、代替元の道路と同程度の規格を実現するというのが一つの目標となるのでは。当然、維持管理も小まめな頻度でやっていく必要がある。

・河川沿いの林道の被害を避けるには、今までの沢から奥へという道の入れ方ではなく、逆に尾根から道を延ばしていくというのも一つの考え方。

＜人材育成・ＩＣＴ＞

・技術者が圧倒的に足りない。ゼロから全体計画を立てて開設するフローを理解した人材を再び育成しなければ、設計作業を委託するとしてもコンサルの仕事も評価できない。

・研修に関して、線形等のテクニカルな各論に加えて林道を計画することにより、全体としての便益や、将来像を見通すことができ、ＩＣＴを理解した統合的な技術者を養成していくことが非常に重要。

＜維持管理＞

・ＩＣＴは開設の計画、施工だけでなく、維持管理にどう使うかが重要。

・インフラのメンテナンスサイクルを確立することが求められる中で、維持管理についてもっと押し出していくべき。

＜その他＞

・効率化に向けてはセミトレーラが通る林道も検討したいが、現状、新設としては、短期間で林道の効果がでるものが求められている。地元の林業事業体からは１０トントラックが通れる作業道の要望があるが、これらは後の管理が林業事業体の負担になることや、利用区域面積も限られるという問題の解消が難しい。